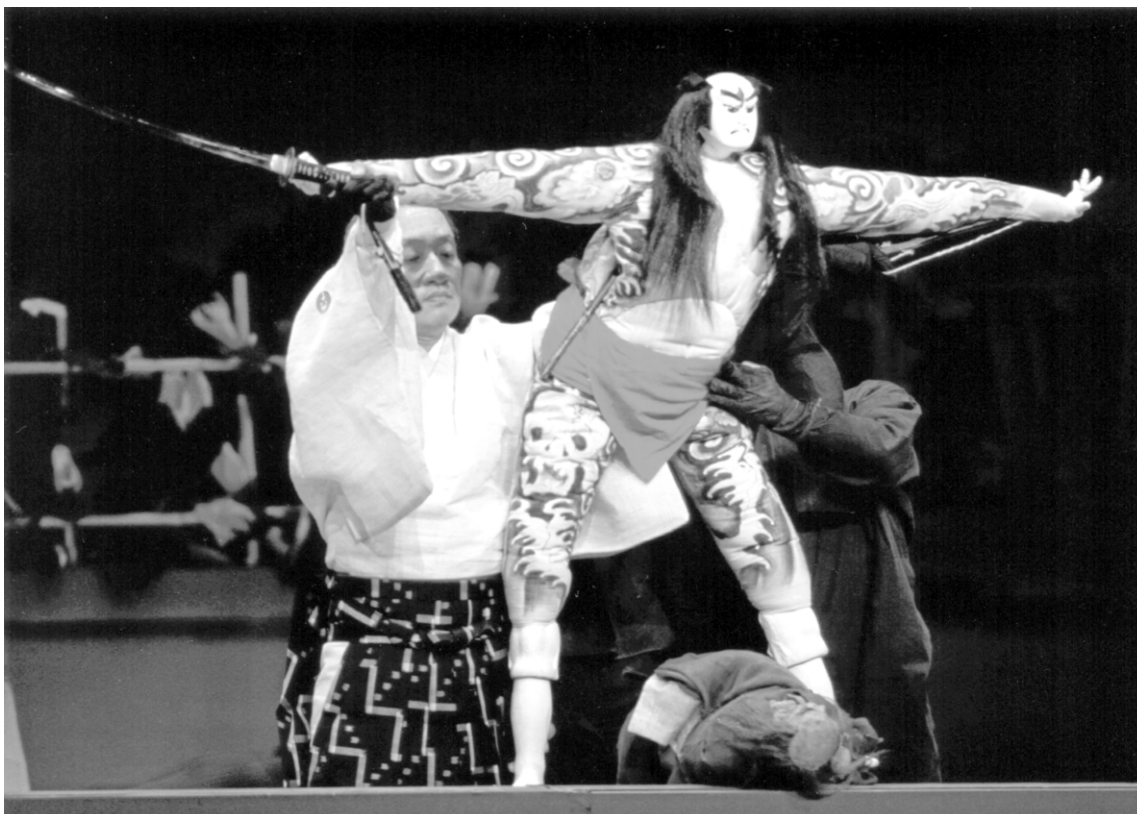


文楽 Bunraku News 応援団通信



なつまつりなにわかがみ
『夏祭浪花鑑』

文楽応援団ホームページ
<http://bunrakuouendan.web.fc2.com/index.html>

文楽応援団の自己紹介 Issued by Bunraku Ouendan

文楽応援団は文楽の普及・振興を目的とするボランティアのグループです
おもな活動内容は

- ①文楽公演のポスター・ちらしを配布
 - ②文楽関係の展示品の解説
 - ③観劇のグループに公演のあらすじや見どころ聞きどころを解説
 - ④劇場外での普及活動(文楽の楽しみ方などを解説)等々です
- この他、文楽に関する学習会や懇親会なども行います



ゆきはこんこんすがたのみずうみ
『雪狐々姿湖』

〒542-0073 大阪府中央区日本橋1-12-10
国立文楽劇場 事業推進課 文楽応援団担当
TEL 06(6212)2531(代) FAX 06(6212)1202

「十一年ぶりの文楽劇場」

国立文楽劇場事業推進課長
中島 敏隆

季節は初夏。

四月に皆様に転任のご挨拶をしてから、はや三ヶ月がすぎました。

思えば、私が東京へ転勤したのが十一年前でした。

当時は営業課勤務で団体の仕事をしていたのですが、人手も予算もなくイベントもあまり活発に出来ていない時代でした。

それでもみんな「文楽のつどい」や「パスツァー」等を企画・実施したことを思い出します。

ほどなく、東京へ転勤となり、経理事務、舞台と事務畑を歩いてきました。

その間仕事に追われ、また独立行政法人化の波にのまれ、ほとんど舞台を鑑賞することが出来ない毎日でした。

今回、十一年ぶりに文楽劇場に戻ってきましたが、これまた東京への出張や会議、事務検査、監査、挨拶などで、四月公演も「妹山背山の段」と「道行恋苧巻」しか見られませんでした。

そんな中、久々の大阪でびっくりしたのは、応援団の皆さんの存在です。前に劇場に居た頃にはなかったこの組織はまさにイキイキとしていて、お客様が文楽に親しみやすい環境を作り、かといって出しやばりすぎない。そんな痒い所に手が届く組織の存在でした。

四月の最初の挨拶にあたって、担当者の竹本係長や秋田支配人から

ろいろな話を聞いていましたが、いろんなイベントにも協力いただき文楽劇場とともに歩むボランティア組織は、振興会の他の劇場には例がなく、今では文楽劇場と切っても切れない組織であることがよくわかりました。昨年は、各公演の解説、各種イベント、そして年度末の文楽列車と皆さんの活躍の場は広がっていますね。また、研修会、石碑清掃と公演中だけでなく、いろんなことに幅広く活動する姿は頼もしい限りです。今年度もすでに活動された4月文楽公演を皮切りに、六月の文楽デー、そして夏から秋、冬とみなさんの活躍される機会が増えると思います。私も、できるだけイベントにも活動にも参加します。そして、私自身の勉強のためにこれからは、いろんな話を聞かせてください。みなさんの協力と文楽劇場が二人三脚で歩んでいきますように。

やっぱり文楽はやめられない！

其の十三
前川 優

私が文楽に通い始めたのは大学生時分ですから、もうかれこれ四十年ということになります。

エ、何です？「文楽歴が長い割にはたいしたことないなあ」て？放つといってください。

当時、道頓堀朝日座の楽屋口の階段を上っていくと文楽協会があり、途中には勘十郎・玉男などと書かれた行李が積まれていました。そんな時代でしたから劇場の前の喫茶店には、出番待ちの技芸員さんが雪駄履きに黒衣のままでお茶を飲みに来ておられたりして、ファンとの距離も今は違つて近かつたように思います。

趣味が文楽だという「へえ、高尚な趣味で」と、変なものでも見るように感心されることが多いのですが、かつて庶民の代表的な娯楽であったことや、落語でもたくさん出てくることなどを話して、そんなたいそうなものでもなく、いつペン劇場をのぞいてみてください、お話しします。

おかげで、最近「前売りとしてえな」と、時々電話注文があったりして、一寸は役に立ってんのかいなと自己満足。

さて、私の住まいは大阪府南部のS市ですが、あるとき文獻で、隣のH市が、竹本義太夫の三味線を弾いていた竹澤（尾崎）権右衛門の出身地であることを知って、あちこち本



「私の宝もの」

を調べたりし始めましたが、これがなかなか進まない。専門家にお聞きしても「地元の寺の過去帳を当てることからはじめたら」という、とんでもないアドバイスで、そりゃまあ一次資料が原則と言うのはわかっただけでも、素人にはなかなかねえ。しかしここでめげてはいかんと、探索の気持ちだけは持ち続けています。その副産物として、古書店で木谷蓬吟の著書を安価で手に入れることができたりにして、今一度、気合を入れなおして思っています。

亡き祖母は「じよろり、聞きに行く」と言うていましたが、そんな気楽なノリで、これからも文楽を楽しみたいと思っています。

やっぱり文楽はやめられない。

『(111)故語(222)(死語(333))』

一人称、じぶんのこと。私の祖母

がよく使っていました。

『わて、今日はいそがしいねん』
などと使う。先代渋谷天外の作に

『わてらの年輪』という戯曲がある。

(M・H)



「なら町散策中」

『文楽列車で奈良へ行こう』
2010.3.27

【八重垣姫】

金岡 純子

水都大阪の中之島は大川に横たわる大きな船のような形の中州で、行政・経済・文化・情報などの中心である。そのまた核に位置する大阪市役所の正面玄関ホールに文楽人形の『本朝廿四孝』「八重垣姫」(飾り用)が展示されている。床面積635m²・天井の高さ10・75mの広くてほの暗い空間にありながら、なかなかの存在感。人形ケース内の表示には「芸術院会 員 文五郎事・吉田難波掾製作(人形の拵え)」、「側面には「ユネスコによる人形浄瑠璃文楽の『世界無形遺産』宣言(二〇〇三年十一月)を記念してここに展示」とある。

市役所内の記録によると、平成十六年に文楽ウイーク事業の一環として「文楽三業(太夫・三味線・人形)の道具」が展示され、人形ケースの覆いは当時の大阪市長・関氏によつ

『湯ったり観劇プラン』

馬越 聖子

三月に山口県長門市「ルネッサながと」へ行ってきました。十六時からの夜の部を観劇、車で迎えにきてもらって、旅館で夕食をとるプランを予約。十時四十五分新大阪発の新幹線で厚狭駅へ行き、JR美祢線に乗りついで、約三時間で長門市に着きました。開演まで少し時間があつたので、お土産を買ったり、おしゃべりなイタリアンレストランで、お茶を飲みながら、『絵本太功記』『日高川入』の芝居小屋の雰囲気と、文楽の伝統的な芝居の雰囲気と、文楽の伝統

て除幕されたとか。それから一週間を経て「見台」と「三味線」は撤収されたが、人形はそのまま飾られて今日に至っている由。展示場所の関係で通りすがりに目にすることはできないが、夏になると大川を中心としたあたりは「天神祭」をはじめとする水都祭の各種イベントで一段と盛り上がる。機会があればホールに立ち寄ってご覧になるのも一興では……。

取材協力
大阪市ゆとりとみどり振興局
文化部 文化振興担当係長
坂口 邦也氏



「八重垣姫」

もある優れた舞台機構で、人形も見易く、音響もすごく良かったと思えます。旅館への電話予約時から食事の希望や劇場からの送迎など、親切に対応して頂きましたが、実際に行ってみると、劇場スタッフの方から旅館の方まで、とても良くして頂きました。「湯ったり観劇プラン」をお勧めです！



「客席よりパチリ」



「ルネッサながと」の資料

BUNRAKU VS. KABUKI

Almost all bunraku plays have versions in kabuki, the traditional all-male popular theatre. The reverse is not always the case, for the obvious reason that human actors are so much more versatile than dolls. But the two theatres grew up together, in their native Osaka/Kyoto area, exchanging and stealing stories, styles and stagecraft, to develop into two of the world's most sophisticated performing arts. Nowhere is their dynamic rivalry better illustrated than by this month's bunraku masterpiece, *Natsu Matsuri Naniwa Kagami* (Osaka Summer Festival).

First staged in 1745, it was such a hit that it played for the next several months and ushered in bunraku's great golden age which lasted the rest of the decade. Kabuki quickly staged its own version, at no less than five competing theatres that year. *Natsu Matsuri* broke ground in both genres for being the first sewamono contemporary play in nine acts – an all-day, stand-alone form until then reserved for the more classical jidaimono history plays.

The bunraku production made news by dressing its dolls in realistic summer fashions, the kabuki for staging its messy murder scene in a real mudhole – a

trick beyond the dolls, whose delicate heads and limbs are easily damaged by water. The murder was thought to have been inspired by an actual killing in Osaka's backstreets in 1744. But attention to the first bunraku playbill reveals its debt to a much older 1698 murder...originally staged by kabuki!

Fans of both forms are still debating how to disentangle the two genres' history of exchange and rivalry. But all agree world theatre would be the poorer without it. Great bunraku stories enriched extravagant kabuki stagecraft, and vice-versa. Kabuki choreography refined puppet movement, as bunraku music enlivened kabuki dance. In fact it is impossible to imagine one theatre without the other. See a perennial favorite like *Natsu Matsuri* in both versions, and judge for yourself.

Faith Bach
Earphone Guide

Next bunraku productions:
Sept. 4-21 (Tokyo) and
Oct. 30-Nov. 21 (Osaka)



天神さんのうちわ

- 1/ 3 新春公演初日。鏡開き。展示解説、演目解説など。24日まで。
応援団通信16号、4,000部発行。
- 1/24 大入り袋を頂く。
- 2/ 1 解説依頼。中国上海の公立小中学校より40名。
担当:荒木、林、藤田。
- 2/ 6 スタッフ会議。出席9名。
- 2/13 第1回研修会。出席40名。
新春公演総括。新団員紹介、現団員より新団員へメッセージなど。
- 2/18 解説依頼。エール学園より韓国と中国の留学生12名。
担当:荒木、大野、岡持、萩原。
- 2/22 ユネスコ協会と出前解説の打合せ。出席:竹村、安藤。
- 2/26 第1回研修会報告書発送事務作業。世話人:松井、安藤。
- 3/ 6 スタッフ会議。出席10名。
- 3/12 文楽列車イベント打合せ。出席:安藤。
- 3/13 第2回研修会。出席39名。
4月公演日程調整。演目説明、担当:藤田。
学習会「赤城山不動の森の場」鑑賞。講師:羽田。
「つめ人形の遣いかたと説明について」講師:畑。
- 3/16 文楽列車の下見で奈良へ。担当:安藤。
- 3/23 社会福祉協議会へボランティア保険加入手続き、61名分申請。
第2回研修会報告書発送事務作業。世話人:松井、安藤。
文楽列車最終打合せ。出席:松井、安藤。
- 3/27 「文楽列車で奈良へ行こう」のスタッフとして20名参加。
世話人:荒木、猪飼、今井(睦)、岩田、鶴野、馬越、大野、岡持、榊田、佐々木、杉野、林、藤田、松井、松吉、丸山、宮本、目黒、八木、安藤。
- 4/ 3 4月公演前日準備。見台など組み立てと活動写真パネル作成。
世話人:荒木、安藤。
- 4/ 4 4月公演初日。応援団員登録証伝達式。秋田支配人より授与される。
出席31名。展示解説、演目解説など。25日まで。
- 4/ 9 解説依頼。サンケイリビングより20名。担当:藤田。
- 4/12 解説依頼。ユネスコ協会より大阪大学へ出前解説依頼、学生109名。
担当:榊田、杉本、竹村、畑。
- 5/ 8 スタッフ会議。出席9名。
- 5/15 第3回研修会。出席29名。4月公演総括。
学習会「"文楽"そんな視点の話もあり？」講師:金岡。
午後:"二つの文学碑"の植栽清掃。参加12名。
- 5/25 第3回研修会報告書発送事務作業。世話人:松井、安藤。
- 6/ 2 大阪市主催「第7回文楽デー」打ち合わせ。出席:安藤。
「大阪まちひと魅力発見推進会議」第30回ラウンド会議。出席:安藤。
- 6/ 8 応援団通信17号第1回編集会議。出席:3名。
- 6/11 第4回研修会案内通知発送事務作業。世話人:松井、安藤。
- 6/12 大阪市主催「第7回文楽デー」前日準備。世話人:猪飼、今井(睦)、岩田、馬越、大野、岡持、榊田、杉本、萩原、安藤。
- 6/13 大阪市主催「第7回文楽デー」にスタッフとして参加。世話人:荒木、猪飼、今井(睦)、岩田、馬越、大野、岡持、金岡、榊田、柴多、下神、杉野、杉本、高橋(裕)、萩原、羽田、二神、堀、松井、宮本、八木、安藤。
- 6/18 応援団通信17号第2回編集会議。出席3名。
- 6/26 スタッフ会議。出席9名。
応援団通信17号第3回編集会議。出席2名。
- 7/ 3 第4回研修会。出席39名。
夏休み公演日程調整。演目説明、担当:藤田。
学習会「床本を読もう」『夏祭浪速鑑』
応援団通信17号第4回編集会議。出席:3名。
- 7/ 8 解説依頼。神戸女学院大学より出前解説依頼。学生8名。
担当:大野、榊田、杉本、畑。
- 7/13 第4回研修会報告書発送事務作業。世話人:松井、安藤。
夏休み公演準備。活動写真パネル作成。世話人:荒木、安藤。
- 7/17 夏休み公演初日。展示解説、演目解説など。8月3日まで。
応援団通信17号4,000部発行予定。
- 7/27 解説依頼。奈良産業大学より出前解説依頼、学生30名。担当:山本。(予定)

文楽公演

平成22年10月 **地方公演スケジュール** 【主催】文楽協会【後援】文化庁

ユネスコ無形文化遺産、人形浄瑠璃文楽。

演目【昼の部】「解説」『かなでほんちゆうしんぐら仮名手本忠臣蔵』「ふただま二つ玉の段」「みう身売りの段」「はやのかんべいはらきり早野勘平腹切の段」つりおんな『釣女』
【夜の部】「解説」『そねざきしんじゅう曾根崎心中』「いくたましやせん生玉社前の段」「てんまや天満屋の段」「てんじんのもり天神森の段」

地方公演チケットお問い合わせ先

9月26日(日)	河内長野市立文化会館 ラブリーホール	0721-53-1111	10月 8日(金)	千葉市文化センター(アートホール)	043-247-8430
30日(木)	石川県立音楽堂(邦楽ホール)	076-232-8632	9日(土)	岡崎市せきりいホール	0564-25-0511
10月 2日(土)	相模原市民会館	042-742-9999	10日(日)	(静岡)グランシップ(中ホール・大地)	054-289-9000
3日(日)	府中の森芸術劇場(ふるさとホール)	042-333-9999	11日(月・祝)	神奈川県立青少年センター	045-662-8866
5日(火)	倉敷市芸文館ホール	086-434-0010	16日(土)	(仙台)電力ホール	022-227-2715
7日(木)	名古屋市芸術創造センター	052-265-2015	17日(日)	(山形県)庄内町文化創造館響ホール	0234-45-1433

文楽応援団通信 第17号 2010年7月17日

編集・発行 文楽応援団(年2回発行予定)

連絡先 〒542-0073 大阪市中央区日本橋1-12-10

国立文楽劇場 事業推進課

TEL06-6212-2531(代) FAX06-6212-1202